



ティーチングとコーチング

校長 市川 真志

梅雨の訪れと共に、日々の成長を感じられる季節となりました。寒暖差が激しい時ですので、体調管理や食中毒にも注意しながら、健康で安全な学校生活を送ってください。

6月は、運動部活動の大会である「学校総合体育大会八潮越谷地区大会」が行われました。3年生にとっては、最後の大会であり、勝利に向かって必死に頑張る姿をたくさん見ることができました。スポーツですから、当然勝ち負けはつきますが、それ以上に、今まで取り組んできた練習の成果を発揮することができたかどうか、が非常に重要です。「勝利」という目標をもって仲間と共に頑張ることで、多くの目的が達成できていると実感する大会でした。出場した皆さん、全力で応援した皆さん、本当にご苦勞様でした。また、県大会に出場する選手の皆さん、これからの練習、頑張ってください。



スポーツの指導法に「ティーチング」と「コーチング」があります。「ティーチング」は教えることが中心です。知識や技術を効率よく伝え、正しい方法を習得させることを目的に行われます。部活動では、新入部員や未経験者に指導する場合に適した指導法だと思われます。それに対して「コーチング」は、気付かせることが中心です。選手が自ら考え、気づき、自発的にプレーすることを目的としています。部活動で考えると基礎を習得し試合に出場する選手に適した指導法と言えるでしょう。コーチングの具体的な例として、私が昔に伺った話を紹介します。アメリカの大リーガーでは、個性的なバッティングフォームをした選手が多くいます。あるテレビ番組で、アメリカの野球に詳しい解説者にアナウンサーが「アメリカでは野球のバッティングをどう教えているのですか？」という質問をしました。すると「子どもにバットを渡し、握り方も教えずにただボールを打つように指示し、ひたすらボールをトスする。すると、右手と左手バラバラにバットを持っていた子どもが、だんだんと手が揃ってきて、左右の手がくっついたときにグッドという。」この指導方法は、非常に効率が悪いように思います。私だったら、まず、持ち方を教え、バットの振り方を教え、マネするように指示してしまいます。しかし、これではやっている人が自分で考えないし、新しいことは生まれません。とにかくバットを振ってみる。その中でいろいろ考え、工夫しながら自分に合ったやり方を見つけ出す。この「コーチング」の指導法が非常に大切だと私は感じています。皆さんの部活動はどうですか？顧問の先生や先輩からの指示を待っていませんか？もしかしたら、先生達は皆さんが自分達で考えて動くことを期待し、待っているのかもしれませんが。例え遠回りに見えても、自分たちで導き出してほしいと願って指導しているのかもしれませんが。

今の社会は、様々な変化の連続で、誰にも予測できないことが多々起こっています。こういうときには、これまでのやり



方が通用しなくなりますから、誰かに教えてもらうことが難しくなります。そんな時代の中で、皆さんはこれから生きていくことになります。誰かから教わるのではなく、自分で考えて答えを導き出す力が必要です。その意味でも、スポーツでの経験は非常に重要だと思います。すぐに答えを教えてもらうのではなく、自分で考える癖をつけていきましょう。世の中には、明確な答えがないことの方が多いです。自分の考えを持ち、その考えを堂々と語れる人になってください。スポーツに限らず、いろいろな場面での皆さんの自主的な活動を期待しています。